

令和9年度～令和12年度

県立高校等再編整備計画

－ 生徒一人一人の夢を叶える特色ある学校づくりの推進 －



令和8年7月

新潟県教育委員会

はじめに

本県では、少子化が進行する中であっても、県立高校の特色化を進め、生徒・保護者から選ばれる魅力ある学校づくりを推進するため、令和7年3月に策定した「県立高校の将来構想」に基づく再編整備を進めています。

本構想においては、令和16年度までを計画期間とし、探究的な学びやSTEAM教育、教科横断的な学び等を重視した「新しい普通科系学科・コース」の設置をはじめ、複数の専門学科を併せ持つ「産業高校」、生徒が自らの状況に応じて学びの場や方法を選択できる「セルフデザインハイスクール」など、新しい時代に対応した多様な学校づくりなどについてお示したところです。

国においては、令和8年2月に「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）」が策定され、2040年の未来に向けた「N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想」が示されました。その中では、「不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長」「我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成」「一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保」の3つの視点を重視しながら、更なる高等学校改革を進めるとされています。これらの方向性は、本県の「将来構想」が目指す学校づくりとも一致するものであり、今後はその具体化に向けた取組を進めてまいります。

本計画では、中学校や中等教育学校への進学を控えた小学校6年生及びその保護者の皆様にも、高校入学時の学校・学科のおおよその姿を事前に把握していただくため、令和12年度までの4か年分の再編整備の概要をお示ししております。

また、計画の策定にあたっては、小中学校の在籍生徒数や各高校の志願状況、中学生の進路希望等に加え、教育に対する社会のニーズや県の課題にも留意しました。

なお、本計画における令和9年度から令和12年度の募集学級数の見込みは、現時点でのデータに基づく見通しをお示したものであり、令和9年度の募集学級数ならびに募集定員については、今後、最新の学校基本調査の結果等も踏まえ、本年10月の教育委員会の議決により、決定されます。

県立高校等の再編整備は、保護者をはじめとする県民の皆様の御理解と御協力が不可欠です。現在の高校教育を取り巻く現状や本県の課題を御理解いただき、次代を担う子どもたちの学びを支えるため、一層の御協力を賜りますようお願いいたします。

令和8年7月9日

新潟県教育委員会教育長
太田 勇二

1 基本的な考え方

「県立高校の将来構想」に基づき、魅力と活力ある学校づくりを推進する

(1) 目指す人づくりの姿

ふるさとへの愛と誇りを胸に、夢や希望を持って粘り強く挑戦するとともに、自ら学び続ける力を身に付け、未来を切り拓いていける、たくましいひとづくり

- 地域への理解を深め、郷土愛を育むことで、地域社会を支える人材を育成するとともに、生徒一人一人が夢の実現に向けてチャレンジし、生涯を通じて主体的に学び続ける力を育成することで、急激に変化する社会の中にあっても、たくましく生きていくひとづくりを目指す。

(2) 「将来構想」の3つの基本方針

- ◆ 多様化する教育ニーズに対応した選ばれる学校づくりの推進
- ◆ 多様な主体との連携・協働やICTの活用による教育環境の充実
- ◆ 教育の質の維持・向上を図る再編整備の推進

(3) 学校規模・配置

県内を6つのエリアに分け、生徒の就学の機会に配慮し、交通事情などそれぞれのエリアの状況を斟酌しながら、必要な学校・学科をバランス良く配置する。

以下の学校を各エリアに1校以上配置する。

- ◆ 1学年あたり4学級以上の普通科系高校
- ◆ 1学年あたり3学級以上の専門系高校（総合学科を含む）
- ◆ 生徒一人一人の状況に合わせて学べる高校

※ 生徒の流出入が限られているエリア⑥（佐渡エリア）の配置については別途検討することとする。

※ 1学級あたりの生徒数は40人とする。

- 各エリアに上記の学校を配置することで、居住する地域によらず、大学等、上級学校への進学に向けた学びや、専門分野の学びなど、生徒の興味・関心や進路希望に応じた選択肢を今後も提供していく。そのための学校規模を維持するため、学校・学科の統合を進めることとする。
- 学校の統合にあたっては、より良い教育環境を整備するために、統合校における教育内容や施設・設備等の充実をあわせて検討する必要がある。

- 離島・中山間地域などの地理的条件や、学びのセーフティネットの確保の観点等を踏まえ、あえて存続させる小規模校もあり得る。存続させる小規模校においては、ICTを活用した遠隔教育や、地域との協働体制構築などを進め、そのデメリットの最小化を図ることとする。

(4) 高校の特色化と魅力ある学校づくり

ア 普通科系学科

- 探究的な学びを推進し、「新しい普通科系学科・コース」の設置や、県外の生徒も学びたくなるような特色ある教育プログラムの導入などを進める。

イ 職業教育を主とする専門学科

- 地域産業界や大学等との連携を一層推進するとともに、複数の専門学科を併せ持つ「産業高校」を設置する。
- 生徒が自分の所属する専門学科での深い学びを軸にしながら、学科を横断した学校設定教科の設置、異なる学科の生徒が協働して取り組む課題研究の実施など、他の専門学科との横断的・協働的な学びを進める。

ウ 総合学科

- 遠隔教育システムを活用した学校間連携のネットワークを構築し、専門科目の学びの充実や、協働的な学びの充実を図る。

エ 生徒一人一人の状況に合わせて学べる高校

- 生徒一人一人の状況に合わせて学べる高校として、「セルフデザインハイスクール」を設置する。
- 従来の定時制課程の仕組みをベースとした「通学コース」と、通信制課程の仕組みをベースとした「オンラインコース」を設置し、生徒が自分の状況に合わせて学びの方法や場所を選択できるような柔軟な制度設計に取り組む。
- 単位制による全日制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」も設置する。

オ 中高一貫教育校

- 6年間を見通した探究プログラムの充実を図るとともに、ICTも活用しながら、中等教育学校間の生徒交流や、遠隔教育による合同授業の実施などに取り組む。

2 「将来構想」の具体化

(1) 令和9年度～令和12年度 再編整備の概要一覧

令和9年度	<ul style="list-style-type: none"> ・国際情報高校を募集停止とし、国際情報高校の校舎内に、新たな全日制単位制高校として、『国際フロンティア高校（仮称）』を設置する。 ・『国際フロンティア高校』においては、ケンブリッジ国際教育プログラムを導入し、『グローバル探究科（仮称）』を設置する。
令和10年度	<ul style="list-style-type: none"> ・村上高校と村上中等教育学校を統合し、新たな併設型中高一貫教育校を設置する。（併設型中学校は令和10年度から募集を開始し、併設型高校は令和13年度から募集を開始する。）
	<ul style="list-style-type: none"> ・正徳館高校を長岡明德高校と統合し、長岡明德高校を「セルフデザインハイスクール」とする。 ・長岡明德高校夜間部を募集停止とし、長岡明德高校に通信制課程を設置する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・高田南城高校を「セルフデザインハイスクール」とする。
令和11年度	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟翠江高校を新潟向陽高校と統合する。 ・新潟翠江高校の通信制課程を新潟向陽高校に移管し、全日制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」とする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県央工業高校と三条商業高校を統合し、<u>新潟県央工業高校の校舎内に、工業系学科と商業系学科を併せ持つ新たな専門学科の高校「産業高校」</u>を設置する。
令和12年度	<ul style="list-style-type: none"> ・荒川高校を西新発田高校と統合する。 ・西新発田高校を定時制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」とする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・堀之内高校を小出高校と統合する。 ・小出高校に、医療、福祉、健康科学を総合的に学べる『医療福祉コース（仮称）』を設置する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・八海高校と塩沢商工高校を統合する。 ・統合校を「セルフデザインハイスクール」とし、定時制課程の仕組みをベースとした、総合学科の「通学コース」と、通信制課程の仕組みをベースとした「オンラインコース」を設置する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・糸魚川高校と糸魚川白嶺高校を統合し、単位制による全日制普通科高校を新たに設置する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡高校相川分校を佐渡高校両津キャンパスと統合する。 ・佐渡高校両津キャンパスを、全日制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」とする。

※ 令和9年度～令和11年度の概要のうち、下線部分については、昨年度公表から更新したものの

(2) 今後のあり方の検討が必要となる主な学校

「1 基本的な考え方」で示した「学校規模・配置」を維持し、新しい学校づくりを進めるため、今後、以下の学校のあり方を検討する必要がある。

ア 小規模校

- 小規模校については、各学校における特色化の取組状況や、志願状況、入学状況、卒業生の進路状況等を評価しながら、地域の交通事情や地元生徒の入学状況など地域の特性も踏まえて、あり方を検討する。
- 1学級募集及び2学級募集の高校に加え、学校や地域の状況を踏まえながら、3学級募集の高校についてもあり方の検討を進める。

【1学級募集の高校（R8年度）】

阿賀野、白根、村松、阿賀黎明、栃尾、有恒、羽茂

【2学級募集の高校（R8年度）】

中条、吉田、分水、見附、松代

イ 将来的な小規模化が見込まれる専門高校及び総合高校

- 農業、工業、商業など複数の専門学科を併せ持つ「産業高校」の設置に向け、専門高校どうしの統合を検討する。
- 専門高校の統合にあたっては、統合前の学校施設・設備等を活用する「キャンパス制」の導入についても、必要に応じて検討する。
- 将来的な小規模化が見込まれる総合高校については、同一エリアの専門高校や普通科高校との統合を含め、あり方を検討する。

【3学級募集の専門高校及び総合高校（R8年度）】

新発田商業、柏崎工業、高田商業

村上桜ヶ丘、柏崎総合、小千谷西、十日町総合、佐渡総合

ウ 定時制・通信制課程の高校

- 各エリアにおける定時制課程・通信制課程の高校のあり方を検討しながら、「セルフデザインハイスクール」の設置を進める。

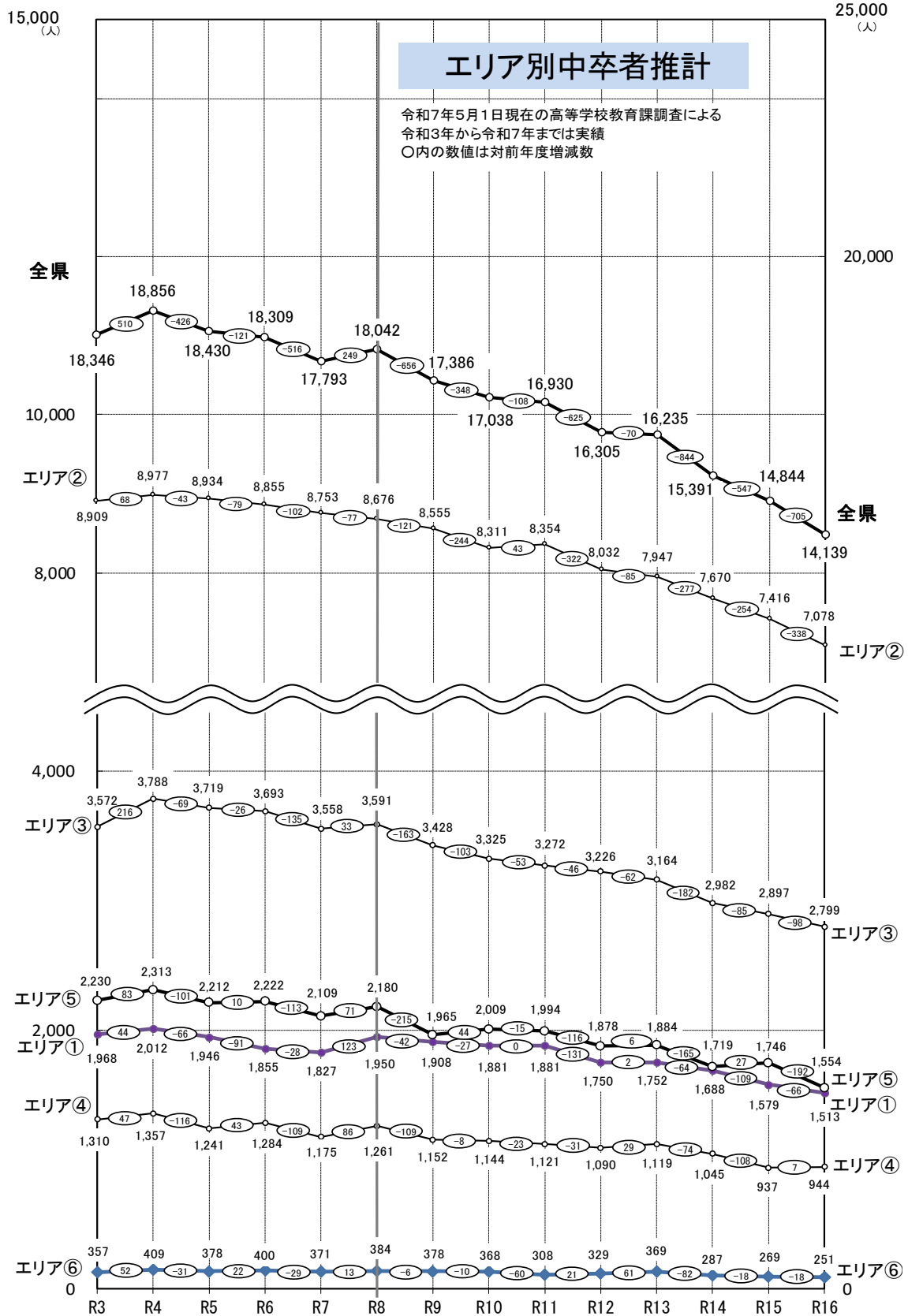
【定時制課程の高校】

出雲崎、十日町（夜間部）

※ 中等教育学校

中等教育学校については、令和3年3月に提出された「県立中等教育学校あり方検討委員会」の提言に基づき、対応を進めることとしている。それぞれの中等教育学校における志願状況や地域の状況について検証し、地元自治体との意見交換を継続的に行いながら、中高一貫教育の実施形態の転換も含め、そのあり方について検討を進める。

3 エリア別中卒者推計



市町村一覧

エリア名	市町村名
エリア①	新発田市、村上市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、関川村、粟島浦村
エリア②	新潟市、三条市、加茂市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、阿賀町
エリア③	長岡市、柏崎市、小千谷市、見附市、出雲崎町、刈羽村
エリア④	十日町市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町
エリア⑤	糸魚川市、妙高市、上越市
エリア⑥	佐渡市

4 計画内容

(1) 県立高校等の募集学級数等

- ※ 各年度の中学校卒業生数は、令和7年5月1日現在の学校基本調査による推計値である。
- ※ 学級数及び学校数は中等教育学校後期課程を含む合計数である。また、分校も1校として算入している。

	R8	R9	R10	R11	R12
全県 中学校卒業生数	18,042	17,386	17,038	16,930	16,305
前年差	249	-656	-348	-108	-625
	R8	R9	R10	R11	R12
	募集学級数	募集学級数の見込み			
全日制学級数	302	287	278	276	264
全日制増減	3	-15	-9	-2	-12
定時制学級数	15	15	14	13	11
定時制増減	0	0	-1	-1	-2
全定学級数	317	302	292	289	275
増減	3	-15	-10	-3	-14
全日制学校数	78	78	77	74	71
学校数増減	0	0	-1	-3	-3
定時制学校数	9	9	9	8	6
学校数増減	0	0	0	-1	-2

<参考> 新潟市立学校及び私立学校（全日制）の募集学級数等

[新潟市立学校]

	R8	R9	R10	R11	R12
	募集学級数	募集学級数の見込み			
全日制学級数	9	9	9	9	9
増減	0	0	0	0	0
定時制学級数	4	3	3	3	3
増減	0	-1	0	0	0
全定募集学級数	13	12	12	12	12
増減	0	-1	0	0	0
全日制学校数	2	2	2	2	2
増減	0	0	0	0	0
定時制学校数	1	1	1	1	1
増減	0	0	0	0	0

※ 新潟市教育委員会による計画

[私立学校]

	R8	R9	R10	R11	R12
	募集学級数	募集学級数の見込み			
全日制学級数	110	110	110	110	110
増減	-3	0	0	0	0
全日制学校数	16	16	16	16	16
増減	0	0	0	0	0

※ 総務部大学・私学振興課調べ

(2) エリアごとの計画

(エリア① 新発田市、村上市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、関川村、粟島浦村)

	R8	R9	R10	R11	R12
中学校卒業生数	1,950	1,908	1,881	1,881	1,750
前年差	123	-42	-27	0	-131
	R8	R9	R10	R11	R12
	募集学級数	募集学級数の見込み			
全日制学級数	34	33	32	32	29
増減	2	-1	-1	0	-3
定時制学級数	3	3	3	3	2
増減	0	0	0	0	-1
全定学級数	37	36	35	35	31
増減	2	-1	-1	0	-4
全日制学校数	9	9	9	9	9
増減	0	0	0	0	0
定時制学校数	2	2	2	2	1
増減	0	0	0	0	-1

◆ 再編整備の概要

令和9年度	予定なし
令和10年度	・村上高校と村上中等教育学校を統合し、新たな併設型中高一貫教育校を設置する。(併設型中学校は令和10年度から募集を開始し、併設型高校は令和13年度から募集を開始する。) (※ P.25 参照)
令和11年度	予定なし
令和12年度	・荒川高校を西新発田高校と統合する。 ・西新発田高校を定時制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」とする。 (※ P.29 参照)

検討事項	・地域の特性や志願状況等を踏まえ、小規模校のあり方について検討する。 ・「産業高校」の設置について検討する。 ・総合学科のあり方について検討する。
------	---

◆ 募集学級数の見込み

< 全日制課程 >

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R8	R9	R10	R11	R12	
村上	普通	4	3	3	2	2	
村上桜ヶ丘	総合	3	3	3	3	3	
中条	普通	2	2	2	2	1	
新発田	普通	6	6	6	6	6	
	理数	1	1	1	1	1	
新発田南	普通	4	4	3	4	3	
	機械工学	4	4	4	4	4	
	建築工学						
	土木工学						
電子情報工学							
新発田農業	生物資源	4	4	4	4	4	
	食品科学						
	環境科学						
新発田商業	商業	3	3	3	3	2	
阿賀野	普通	1	1	1	1	1	
計		32	31	30	30	27	

< 定時制課程 >

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R8	R9	R10	R11	R12	
西新発田	普通(午前部)	2	2	2	2	統合	
西新発田 (ヒルファデザインハイスクール・ 通学コース)	普通(午前部)					2	
荒川	普通(午前部)	1	1	1	1	統合	
計		3	3	3	3	2	

< 通信制課程 >

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R8	R9	R10	R11	R12	
西新発田 (ヒルファデザインハイスクール・ オンラインコース)	普通					若干人	

< 中等教育学校 >

学校名	課程	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R8	R9	R10	R11	R12	
村上中等 教育学校	前期課程	(2)	(2)	募集停止			
	後期課程	2	2	2	2	2	

< 中学校 >

学校名	募集学級数	募集学級数の見込み				
	R8	R9	R10	R11	R12	
村上・村上中等統合中学校			(2)	(2)	(2)	

(エリア② 新潟市、三条市、加茂市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、阿賀町)

	R8	R9	R10	R11	R12
中学校卒業生数	8,676	8,555	8,311	8,354	8,032
前年差	-77	-121	-244	43	-322
	R8	R9	R10	R11	R12
	募集学級数	募集学級数の見込み			
全日制学級数	133	129	122	123	118
増減	-2	-4	-7	1	-5
定時制学級数	1	1	1	0	0
増減	0	0	0	-1	0
全定学級数	134	130	123	123	118
増減	-2	-4	-7	0	-5
全日制学校数	28	28	28	27	27
増減	-1	0	0	-1	0
定時制学校数	1	1	1	0	0
増減	0	0	0	-1	0

◆ 再編整備の概要

令和9年度	予定なし
令和10年度	予定なし
令和11年度	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟翠江高校を新潟向陽高校と統合する。 ・新潟翠江高校の通信制課程を新潟向陽高校に移管し、全日制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」とする。 (※ P.27 参照) ・新潟県央工業高校と三条商業高校を統合し、新潟県央工業高校の校舎内に、工業系学科と商業系学科を併せ持つ新たな専門学科の高校「産業高校」を設置する。 (※ P.28 参照)
令和12年度	<ul style="list-style-type: none"> ・新津工業高校を学科改編する。

検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性や志願状況等を踏まえ、小規模校のあり方について検討する。 ・中等教育学校のあり方について検討する。
------	--

◆ 募集学級数の見込み

<全日制課程>

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R8	R9	R10	R11	R12
豊栄	普通	統合				
新潟	普通	6	6	6	6	6
	理数	2	2	2	2	2
新潟中央	普通	4	4	4	4	4
	普通(学究コース)	2	2	1	1	1
	食物	1	1	1	1	1
	音楽	1	1	1	1	1
新潟南	普通	8	7	7	7	6
	普通(理数コース)	1	1	1	1	1
新潟江南	普通	7	7	6	7	6
新潟西	普通	7	7	6	7	6
新潟東	普通	7	6	6	6	6
新潟北	普通	統合				
碧	普通	4	4	4	4	4
新潟工業	IT工学					
	メカトロニクス工学					
	都市工学	7	7	6	7	7
	建築工学					
	環境化学					
新潟商業	総合ビジネス	4	4	4	4	4
	情報処理	2	2	2	2	2
	国際教養	2	2	1	1	1
新潟向陽	普通	5	5	4	統合	
新潟向陽 (セルデザインハイスクール)	普通				4	4

<全日制課程>

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R8	R9	R10	R11	R12
巻	普通	6	6	6	6	6
巻総合	総合	4	4	4	4	4
新津	普通	6	6	6	6	6
新津工業	工業マイスター	1	1	1	1	学科改編
	生産工学	1	1	1	1	
	ロボット工学	1	1	1	1	
	日本建築	1	1	1	1	
	工業系*					
新津南	普通	3	2	2	2	2
白根	普通	1	1	1	1	1
五泉	総合	5	5	4	4	4
村松	普通	1	1	1	1	1
阿賀黎明	普通	1	1	1	1	1
三条	普通	5	5	5	5	5
	理数	1	1	1	1	1
三条東	普通	5	5	5	5	4
新潟県央工業	機械加工	4	4	4	統合	
	電子機械					
	情報電子					
	建設工学					
三条商業	総合ビジネス	3	3	3	統合	
新潟県央工業・ 三条商業 統合校	工業系				3	3
	商業系				2	2
吉田	普通	2	2	2	2	2
分水	普通	2	2	2	2	2
加茂	普通	4	3	3	3	3
加茂農林	生産技術	4	4	4	4	4
	環境緑地					
	食品技術					
	生物工学					
計		131	127	120	121	116

*学科改編後に設置する学科については、次回の計画公表時以降に示す。

< 定時制課程 >

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R8	R9	R10	R11	R12
新潟翠江	普通(午前部)	1	1	1	募集停止	

< 通信制課程 >

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R8	R9	R10	R11	R12
新潟向陽 (ベルフザインハイスクール・ オンラインコース)	普通				若干人	若干人
新潟翠江	普通	若干人	若干人	若干人	統合	

< 中等教育学校 >

学校名	課程	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R8	R9	R10	R11	R12
燕中等 教育学校	前期課程	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
	後期課程	2	2	2	2	2

(エリア③ 長岡市、柏崎市、小千谷市、見附市、出雲崎町、刈羽村)

	R8	R9	R10	R11	R12
中学校卒業生数	3,591	3,428	3,325	3,272	3,226
前年差	33	-163	-103	-53	-46
	R8	R9	R10	R11	R12
	募集学級数	募集学級数の見込み			
全日制学級数	60	56	54	52	52
増減	1	-4	-2	-2	0
定時制学級数	5	5	4	4	4
増減	0	0	-1	0	0
全定学級数	65	61	58	56	56
増減	1	-4	-3	-2	0
全日制学校数	16	16	15	14	14
増減	0	0	-1	-1	0
定時制学校数	2	2	2	2	2
増減	0	0	0	0	0

◆ 再編整備の概要

令和9年度	予定なし
令和10年度	<ul style="list-style-type: none"> ・正徳館高校を長岡明德高校と統合し、長岡明德高校を「セルフデザインハイスクール」とする。 ・長岡明德高校夜間部を募集停止とし、長岡明德高校に通信制課程を設置する。 (※ P.24 参照)
令和11年度	予定なし
令和12年度	予定なし

検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性や志願状況等を踏まえ、小規模校のあり方について検討する。 ・総合学科のあり方について検討する。
------	--

◆ 募集学級数の見込み

<全日制課程>

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R8	R9	R10	R11	R12
長岡	普通	6	5	5	5	5
	理数	2	2	2	2	2
長岡大手	普通	6	5	5	5	5
	家政	1	1	1	1	1
長岡向陵	普通	5	5	5	5	5
長岡農業	生産技術	4	学科名変更	/	/	/
	生活環境					
	食品科学					
	生産技術	/	3	3	3	3
	園芸科学(仮称)					
食品科学						
長岡工業	機械工学	5	5	5	5	5
	電気電子工学					
	物質工学					
	産業デザイン					
長岡商業	総合ビジネス	4	4	3	3	3
正徳館	普通	1	1	統合	/	/
栃尾	総合	1	1	1	1	1
見附	普通	2	2	2	2	2
柏崎	普通	5	5	5	5	5
柏崎常盤	普通	3	2	2	2	2
柏崎総合	総合	3	3	3	3	3
柏崎工業	機械創造	3	3	3	3	3
	電気技術					
	環境化学					
小千谷	普通	4	4	4	4	4
小千谷西	総合	3	3	3	3	3
計		58	54	52	52	52

<定時制課程>

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R8	R9	R10	R11	R12
長岡明德	普通(午前部)	3	3	統合		
	普通(夜間部)	1	1			
長岡明德 (セルリアンハイスクール・ 通学コース)	普通(午前部)			3	3	3
出雲崎	普通(午前部)	1	1	1	1	1
計		5	5	4	4	4

<通信制課程>

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R8	R9	R10	R11	R12
長岡明德 (セルリアンハイスクール・ オンラインコース)	普通			若干人	若干人	若干人

<中等教育学校>

学校名	課程	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R8	R9	R10	R11	R12
柏崎翔洋	前期課程	募集停止				
中等教育学校	後期課程	2	2	2		

<中学校>

学校名	募集学級数	募集学級数の見込み			
	R8	R9	R10	R11	R12
柏崎高校附属中学校	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)



(エリア④ 十日町市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町)

	R8	R9	R10	R11	R12
中学校卒業者数	1,261	1,152	1,144	1,121	1,090
前年差	86	-109	-8	-23	-31
	R8	R9	R10	R11	R12
	募集学級数	募集学級数の見込み			
全日制学級数	27	25	25	25	23
増減	1	-2	0	0	-2
定時制学級数	3	3	3	3	3
増減	0	0	0	0	0
全定学級数	30	28	28	28	26
増減	1	-2	0	0	-2
全日制学校数	9	9	9	9	7
増減	0	0	0	0	-2
定時制学校数	2	2	2	2	2
増減	0	0	0	0	0

◆ 再編整備の概要

令和9年度	<ul style="list-style-type: none"> ・国際情報高校を募集停止とし、国際情報高校の校舎内に、新たな全日制単位制高校として、『国際フロンティア高校（仮称）』を設置する。 ・『国際フロンティア高校』においては、ケンブリッジ国際教育プログラムを導入し、『グローバル探究科（仮称）』を設置する。（※ P.23 参照）
令和10年度	予定なし
令和11年度	予定なし
令和12年度	<ul style="list-style-type: none"> ・堀之内高校を小出高校と統合する。 ・小出高校に、医療、福祉、健康科学を総合的に学べる『医療福祉コース（仮称）』を設置する。（※ P.30 参照） ・八海高校と塩沢商工高校を統合する。 ・統合校を「セルフデザインハイスクール」とし、定時制課程の仕組みをベースとした、総合学科の「通学コース」と、通信制課程の仕組みをベースとした「オンラインコース」を設置する。（※ P.31 参照）

検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性や志願状況等を踏まえ、小規模校のあり方について検討する。 ・総合学科のあり方について検討する。 ・中等教育学校のあり方について検討する。
------	--

◆ 募集学級数の見込み

<全日制課程>

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R8	R9	R10	R11	R12
小出	普通	3	3	3	3	4
国際情報	国際文化	2	/	/	/	/
	情報科学					
国際フロンティア(仮称)	グローバル探究(仮称)	/	2	2	2	2
六日町	普通	5	5	5	5	6
八海	普通	2	2	2	2	統合
塩沢商工	地域創造工学	2	1	1	1	統合
	商業	1	1	1	1	統合
十日町	普通	4	3	3	3	3
	クロス探究	1	1	1	1	1
十日町総合	総合	3	3	3	3	3
松代	普通	2	2	2	2	2
計		25	23	23	23	21

<定時制課程>

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R8	R9	R10	R11	R12
堀之内	普通(午前部)	2	2	2	2	統合
八海・塩沢商工統合校 (ベルファデザインハイスクール・ 通学コース)	総合(午前部)	/	/	/	/	2
十日町	普通(夜間部)	1	1	1	1	1
計		3	3	3	3	3

<通信制課程>

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R8	R9	R10	R11	R12
八海・塩沢商工統合校 (ベルファデザインハイスクール・ オンラインコース)	普通	/	/	/	/	若干人

<中等教育学校>

学校名	課程	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R8	R9	R10	R11	R12
津南中等 教育学校	前期課程	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
	後期課程	2	2	2	2	2

(エリア⑤) 糸魚川市、妙高市、上越市)

	R8	R9	R10	R11	R12
中学校卒業生数	2,180	1,965	2,009	1,994	1,878
前年差	71	-215	44	-15	-116
	R8	R9	R10	R11	R12
	募集学級数	募集学級数の見込み			
全日制学級数	38	34	35	35	33
増減	1	-4	1	0	-2
定時制学級数	2	2	2	2	2
増減	0	0	0	0	0
全定学級数	40	36	37	37	35
増減	1	-4	1	0	-2
全日制学校数	11	11	11	11	10
増減	0	0	0	0	-1
定時制学校数	1	1	1	1	1
増減	0	0	0	0	0

◆ 再編整備の概要

令和9年度	予定なし
令和10年度	・高田南城高校を「セルフデザインハイスクール」とする。 (※ P.24 参照)
令和11年度	予定なし
令和12年度	・糸魚川高校と糸魚川白嶺高校を統合し、単位制による全日制普通 科高校を新たに設置する。 (※ P.32 参照)

検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性や志願状況等を踏まえ、小規模校のあり方について検討する。 ・「産業高校」の設置について検討する。 ・総合学科のあり方について検討する。 ・中等教育学校のあり方について検討する。
------	---

◆ 募集学級数の見込み

< 全日制課程 >

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R8	R9	R10	R11	R12	
高田	普通	5	5	5	5	5	
	理数	1	1	1	1	1	
高田北城	普通	4	4	4	4	4	
	生活文化	1	1	1	1	1	
高田農業	生物資源	4	4	4	4	4	
	食品科学						
	農業土木						
上越総合技術	機械創造工学	5	4	4	4	4	
	電気情報						
	建築環境						
	土木防災						
高田商業	総合ビジネス	3	2	3	3	2	
有恒	普通	1	1	1	1	1	
新井	総合	4	3	3	3	3	
糸魚川	普通	3	3	3	3	統合	
糸魚川白嶺	総合	3	2	2	2	統合	
糸魚川・糸魚川白嶺統合校	普通					4	
海洋	水産資源	2	2	2	2	2	
	海洋開発						
計		36	32	33	33	31	

< 定時制課程 >

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R8	R9	R10	R11	R12	
高田南城	普通(午前部)	2	2				
高田南城 (ヒルデガインハイスクール・ 通学コース)	普通(午前部)			2	2	2	

< 通信制課程 >

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R8	R9	R10	R11	R12	
高田南城	普通	若干人	若干人				
高田南城 (ヒルデガインハイスクール・ オンラインコース)	普通			若干人	若干人	若干人	

< 中等教育学校 >

学校名	課程	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R8	R9	R10	R11	R12	
直江津	前期課程	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	
中等教育学校	後期課程	2	2	2	2	2	

(エリア⑥ 佐渡市)

	R8	R9	R10	R11	R12
中学校卒業者数	384	378	368	308	329
前年差	13	-6	-10	-60	21
	R8	R9	R10	R11	R12
	募集学級数	募集学級数の見込み			
全日制学級数	10	10	10	9	9
増減	0	0	0	-1	0
定時制学級数	1	1	1	1	0
増減	0	0	0	0	-1
全定学級数	11	11	11	10	9
増減	0	0	0	-1	-1
全日制学校数	5	5	5	4	4
増減	1	0	0	-1	0
定時制学校数	1	1	1	1	0
増減	0	0	0	0	-1

◆ 再編整備の概要

令和9年度	予定なし
令和10年度	予定なし
令和11年度	予定なし
令和12年度	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡高校相川分校を佐渡高校両津キャンパスと統合する。 ・佐渡高校両津キャンパスを、全日制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」とする。 (※ P.33 参照)

検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性や志願状況等を踏まえ、小規模校のあり方について検討する。 ・総合学科のあり方について検討する。
------	--

◆ 募集学級数の見込み

< 全日制課程 >

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R8	R9	R10	R11	R12	
佐渡	普通	4	4	4	4	4	4
両津キャンパス	普通	1	1	1	1	1	統合
両津キャンパス (セルフデザインハイスクール)	普通						1
羽茂	普通	1	1	1	1	1	1
佐渡総合	総合	3	3	3	3	3	3
計		9	9	9	9	9	9

< 定時制課程 >

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R8	R9	R10	R11	R12	
佐渡相川分校	普通(午前部)	1	1	1	1	1	統合

< 通信制課程 >

高校名	学科	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R8	R9	R10	R11	R12	
両津キャンパス (セルフデザインハイスクール・ オンラインコース)	普通						若干人

< 中等教育学校 >

学校名	課程	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R8	R9	R10	R11	R12	
佐渡中等 教育学校	前期課程	募集停止					
	後期課程	1	1	1			

(3) 令和9年度～令和12年度 再編整備の具体的な内容について

令和9年度

国際情報高校を募集停止とし、国際情報高校の校舎内に、新たな全日制単位制高校として、『国際フロンティア高校（仮称）』を設置する。『国際フロンティア高校』においては、ケンブリッジ国際教育プログラムを導入し、『グローバル探究科（仮称）』を設置する。

- 国際情報高校を『国際フロンティア高校（仮称）』とし、全国の公立高校では初となる「ケンブリッジ国際教育プログラム」を導入するとともに、全日制単位制高校として、学科のあり方や教育活動を一新します。
- このプログラムは、世界的な国際教育機関が提供するものであり、世界各国の大学入学資格につながるものとして、高い評価を得ています。主体的に問いを立て、データや根拠に基づいて考察・表現する探究型の学びを通じて、柔軟な発想や多面的なものを見方を養います。
- ケンブリッジ国際教育プログラムで導入する科目は、すべて英語で授業を行います。一方で、それ以外の科目については、日本の高等学校学習指導要領に基づき、日本語で授業を行います。
- 令和9年度は、数学・英語の授業において、1年生全員がケンブリッジ国際教育プログラムを英語で学びます。令和10年度以降は、海外大学への進学を志望する2・3年生を対象に、地理歴史（地理）や理科（物理・化学・生物）、外国語の一部の科目にも同プログラムを導入し、授業を展開していく予定です。
- 国際的な教育プログラムの活用に加え、国際大学の留学生等との意見交換や発表の機会を設けることで、グローバルな視点から課題解決を図る力を養うとともに、社会で求められる国際性と発信力を育成します。
- 海外大学進学と国内大学進学の双方に対応した教育課程を編成し、生徒一人一人の多彩な進路希望に応えられるサポート体制を構築します。
- また、学内には、高度な実験・観察を行うためのラボや、協働的な学びや成果発表を行うための探究学習スペースなどを整備する予定です。さらに、寮にも留学生や地域住民と交流できるスペースを設け、教室内にとどまらず、学校内外で探究活動や国際交流を行える環境を整えていきます。

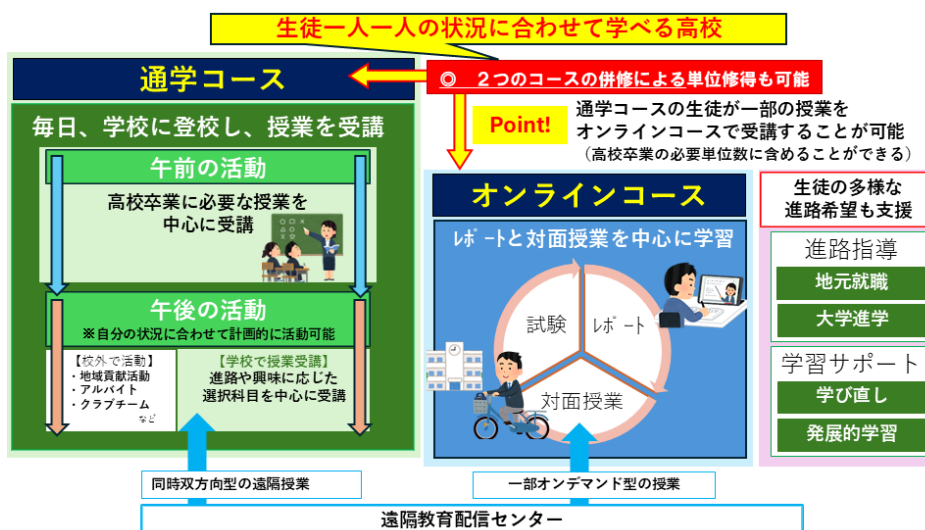
令和10年度

正徳館高校を長岡明德高校と統合し、長岡明德高校を「セルフデザインハイスクール」とする。長岡明德高校夜間部を募集停止とし、長岡明德高校に通信制課程を設置する。

高田南城高校を「セルフデザインハイスクール」とする。

- 生徒の多様な学習ニーズに応えるため、定時制課程と通信制課程の垣根を越えた学びの仕組みを構築するとともに、遠隔教育の活用やデジタルレポートの導入を行い、生徒が自分の状況に合わせて学びの方法や場所を選択することができる「セルフデザインハイスクール」を設置します。
- この高校では、従来の定時制課程の仕組みをベースとした「通学コース」と、通信制課程の仕組みをベースとした「オンラインコース」を設置し、お互いのコースの単位修得や、コース間の転籍を柔軟に行えるような制度設計に取り組みます。
- 「通学コース」では、毎日の対面授業を中心としながら、「オンラインコース」の授業も選択可能とし、生徒の多様な進路希望や生活スタイルに応じて、時間割を設定できるようにします。「オンラインコース」では、レポートとスクーリングを中心としながら、「遠隔教育配信センター」が提供するオンデマンド授業も活用することで、学びのスタイルをより柔軟に選べるようにします。
- また、「通学コース」の生徒が毎日通学することが困難となった場合、「オンラインコース」に転籍することで、同じ学校で学び続けられるような仕組みを構築します。
- 「オンラインコース」においても、対面で学ぶ機会を確保することとしており、体験的な活動の充実を図るとともに、コミュニケーションスキルを高めるための内容を取り入れた集中スクーリングの実施なども検討していきます。
- なお、正徳館高校については、令和10年度に募集停止とします。

【参考】「セルフデザインハイスクール」のイメージ



令和 10 年度

村上高校と村上中等教育学校を統合し、新たな併設型中高一貫教育校を設置する。（併設型中学校は令和 10 年度から募集を開始し、併設型高校は令和 13 年度から募集を開始する。）

- 村上高校と村上中等教育学校を統合し、新しい中高一貫教育校を設置します。大学進学を重視する学校としての役割を 1 つに統合し、スケールメリットを活かしながら、教育活動の充実を図ります。
- 両校の学びを継承しつつ、生徒の進路希望の実現に向けて、より一層、確かな学力を育成する学校とします。
- 新たな中高一貫教育校の設置場所については、以下のとおりとします。
 - ① 令和 10 年度から令和 12 年度まで、併設型中学校は村上中等教育学校の校舎を使用します。
 - ② 令和 13 年度に、併設型中学校と村上中等教育学校をまとめて村上高校の校舎に移転します。
 - ③ 令和 13 年度以降、併設型中学校、併設型高校ともに村上高校の校舎を使用します。
- 令和 10 年度に、村上中等教育学校の校舎で新しい併設型中学校の募集を開始します。併設型中学校は、村上中等教育学校と連携しながら、6 学年そろった学習環境を維持することとします。
- 令和 13 年度に、村上高校の校舎で新しい併設型高校の募集を開始します。なお、新しい併設型高校の学校名については、今後、地元関係者とも協議しながら検討します。併設型中学校の生徒に対しては入学者選抜を行わずに、併設型高校に接続します。併設型中学校以外の市立中学校などに対しても生徒募集を行い、この場合は他の高等学校と同様に入学者選抜を行います。
- 村上中等教育学校の令和 8 年度入学生は、中等教育学校 6 年生になるときに移転します。令和 9 年度入学生（現小学 6 年生）は、中等教育学校 5 年生になるときに移転します。
- 併設型中学校の令和 10 年度入学生（現小学 5 年生）は、高校 1 年生で移転します。令和 11 年度入学生（現小学 4 年生）は、中学 3 年生で移転します。令和 12 年度入学生（現小学 3 年生）は、中学 2 年生で移転します。併設型中学校の令和 13 年度入学生（現小学 2 年生）は、最初から村上高校の校舎を使用します。
- 併設型中高一貫教育校の 6 学年すべてがそろうのは、令和 15 年度からとなります。

【参考】統合における校舎使用のイメージ

令和9年度～令和12年度

※ ○数字は学級数

村上中等教育学校 校舎					
	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13
中等6	中等R4入学	中等R5入学	中等R6入学	中等R7入学	
[学級]	②	②	②	②	
中等5	中等R5入学	中等R6入学	中等R7入学	中等R8入学	
[学級]	②	②	②	②	
中等4	中等R6入学	中等R7入学	中等R8入学	中等R9入学	
[学級]	②	②	②	②	
中3 (中等3)	中等R7入学	中等R8入学	中等R9入学	併中R10入学	
[学級]	②	②	②	②	
中2 (中等2)	中等R8入学	中等R9入学	併中R10入学	併中R11入学	
[学級]	②	②	②	②	
中1 (中等1)	中等R9入学 (現小学6年)	併中R10入学 (現小学5年)	併中R11入学 (現小学4年)	併中R12入学 (現小学3年)	
[学級]	②	②	②	②	

※ 5学年分、村上高校に移転

令和13年度～令和15年度

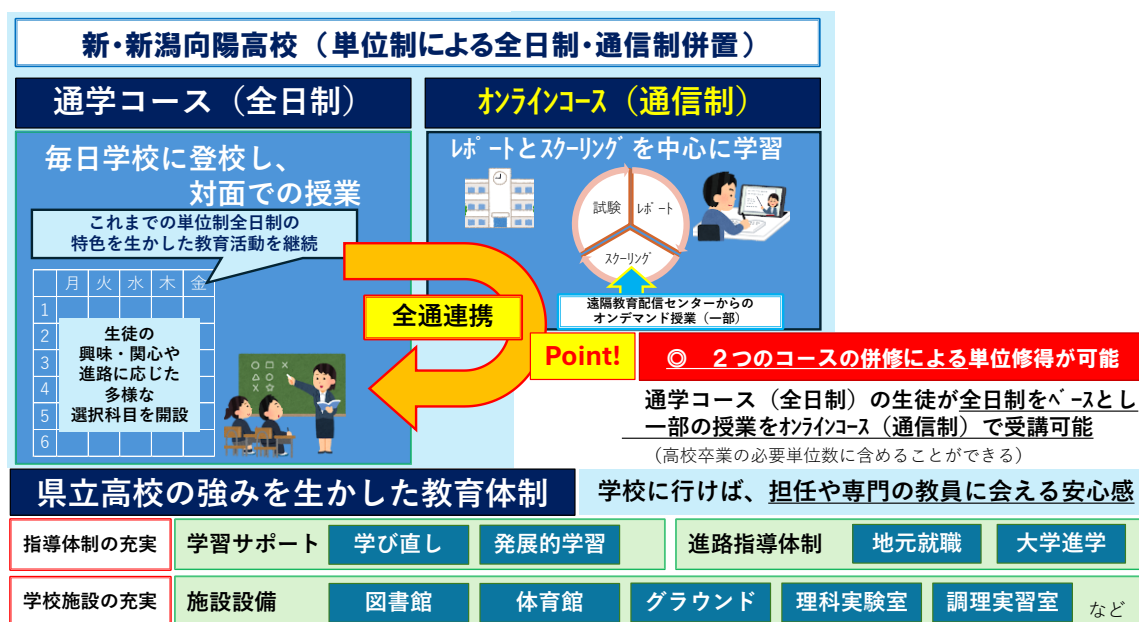
村上高校 校舎						
	R 13		R 14		R 15	
中等6 (高3)	中等R8入学	村高R11入学 (現中学1年)	中等R9入学	村高R12入学	併中R10入学 (現小学5年)	併高R13入学 (現小学5年)
[学級]	②	②	②	②	②	②
中等5 (高2)	中等R9入学 (現小学6年)	村高R12入学 (現小学6年)	併中R10入学	併高R13入学	併中R11入学	併高R14入学
[学級]	②	②	②	②	②	②
中等4 (高1)	併中R10入学 (現小学5年)	(高校から入学) 2クラス分	併中R11入学	(高校から入学) 2クラス分	併中R12入学	(高校から入学) 2クラス分
[学級]	②		②		②	
中3	併中R11入学 (現小学4年)	入学者選抜	併中R12入学	併高R14入学	併中R13入学	併高R15入学
[学級]	②	②	②	②	②	②
中2	併中R12入学 (現小学3年)		併中R13入学		併中R14入学	
[学級]	②		②		②	
中1						
[学級]						
	併中R13入学 (現小学2年)		併中R14入学		併中R15入学	
	②		②		②	

令和 11 年度

新潟翠江高校を新潟向陽高校と統合する。新潟翠江高校の通信制課程を新潟向陽高校に移管し、全日制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」とする。

- 新潟翠江高校を募集停止とし、通信制課程を新潟向陽高校に移管します。
- そのうえで、新潟向陽高校を、単位制による全日制課程の仕組みをベースにした「通学コース（全日制）」と、これまでの通信制課程の仕組みをベースにした「オンラインコース」による「セルフデザインハイスクール」とします。
- 2つのコース間において、お互いの単位修得や転籍を柔軟に行えるような仕組みを構築します。
- 「通学コース（全日制）」では、新潟向陽高校のこれまでの全日制単位制の仕組みを維持しながら、「オンラインコース」で一部の単位修得ができるようにします。
- 「通学コース（全日制）」の生徒が、様々な事情で毎日通学することが困難になった場合、「オンラインコース」に転籍することで、同じ学校で学び続けられるような仕組みを構築します。また、生徒の状況に応じて、再度「通学コース」に戻ることができるような仕組みも検討します。
- 令和 11 年度に、新潟翠江高校通信制課程に在籍する生徒は、以後のスクーリングを新潟向陽高校の校舎で行います。
- なお、新潟翠江高校定時制課程については、令和 10 年度入学生が最後の入学生となり、新潟翠江高校校舎に卒業まで通学します。当該年度の入学生が4年間で卒業する令和 13 年度末に閉校する予定です。

【参考】全日制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」のイメージ

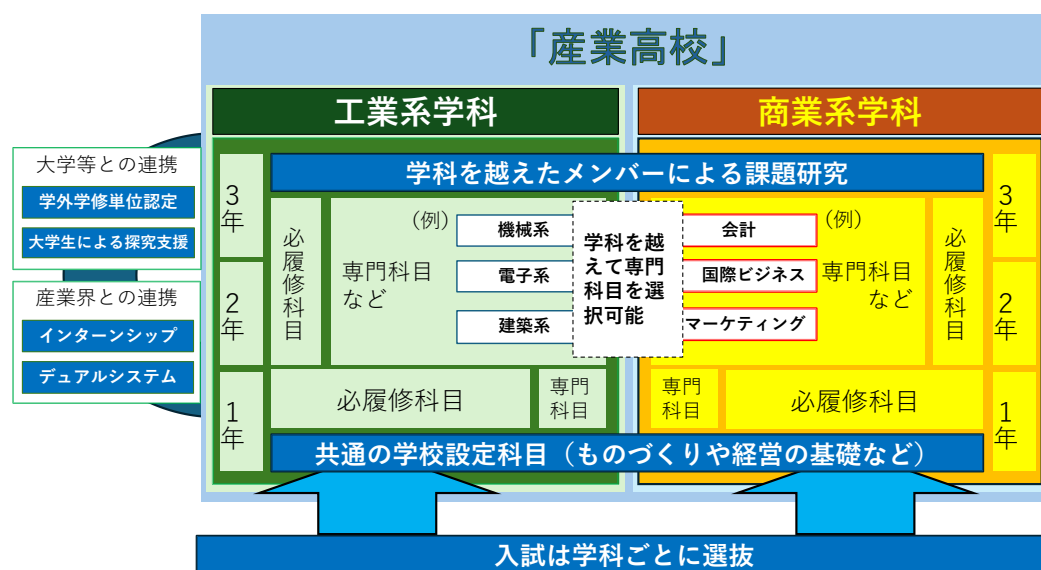


令和11年度

新潟県中央工業高校と三条商業高校を統合し、新潟県中央工業高校の校舎内に、工業系学科と商業系学科を併せ持つ新たな専門学科の高校「産業高校」を設置する。

- 新しい「産業高校」では、生徒が自分の所属する工業系または商業系学科での深い学びを軸としながら、学科の枠を超えた協働的な学びを推進し、新しい価値を創造して地域産業をリードする人材を育成します。
- 他学科の専門科目の一部を選択可能とし、自分の専門分野とは異なる知識や視点を取り入れることで、既存の枠組みにとらわれることなく、地域産業の課題解決に資することができるような教育課程を編成します。
- 例えば、ものづくりを学ぶ生徒がマーケティングや経営の視点を持ったり、ビジネスを学ぶ生徒が製品の開発プロセスを理解したりするなど、お互いの強みを融合させた実践的な探究活動や地域課題への挑戦に取り組みます。
- さらに、将来の起業も想定したアントレプレナーシップ教育や、海外との取引を想定した、国際理解教育にも取り組みます。
- 地域の産業界や大学等と緊密に連携し、社会の第一線で活躍する専門家との交流や実社会に根差した体験などを通じて、卒業後のキャリアを具体的に描くことのできる教育環境を整えます。
- 当校の校舎については、新潟県中央工業高校の校舎を活用するほか、敷地内に新たな実習棟を建設することも検討しており、先端機器の導入や地元産業界と連携した実習、小中学生との交流などを一体的に進める予定です。
- なお、校名については、地元関係者の意見も踏まえながら検討します。

【参考】「産業高校」のイメージ



令和 12 年度

荒川高校を西新発田高校と統合する。西新発田高校を定時制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」とする。

- 「セルフデザインハイスクール」における「通学コース」では、毎日の対面授業を中心としながら、「オンラインコース」の授業も選択可能とし、生徒の多様な進路希望や生活スタイルに応じて、時間割を設定できるようにします。「オンラインコース」では、レポートとスクーリングを中心としながら、「遠隔教育配信センター」が提供するオンデマンド授業も活用することで、学びのスタイルをより柔軟に選べるようにします。
- また、「通学コース」の生徒が毎日通学することが困難となった場合、「オンラインコース」に転籍することで、同じ学校で学び続けられるような仕組みを構築します。
- 「オンラインコース」においても、対面で学ぶ機会を確保することとしており、体験的な活動の充実を図るとともに、コミュニケーションスキルを高めるための内容を取り入れた集中スクーリングの実施なども検討していきます。
- なお、荒川高校については、令和 12 年度に募集停止とします。
- これまで荒川高校で培われてきた通級指導の取組についても継承し、多様な背景を持つ生徒への支援体制を整備することで、すべての生徒が安心して学習を継続できる環境を構築します。なお、令和 11 年度に荒川高校に在籍する生徒への通級指導は、令和 12 年度以降も荒川高校の校舎で行う予定です。

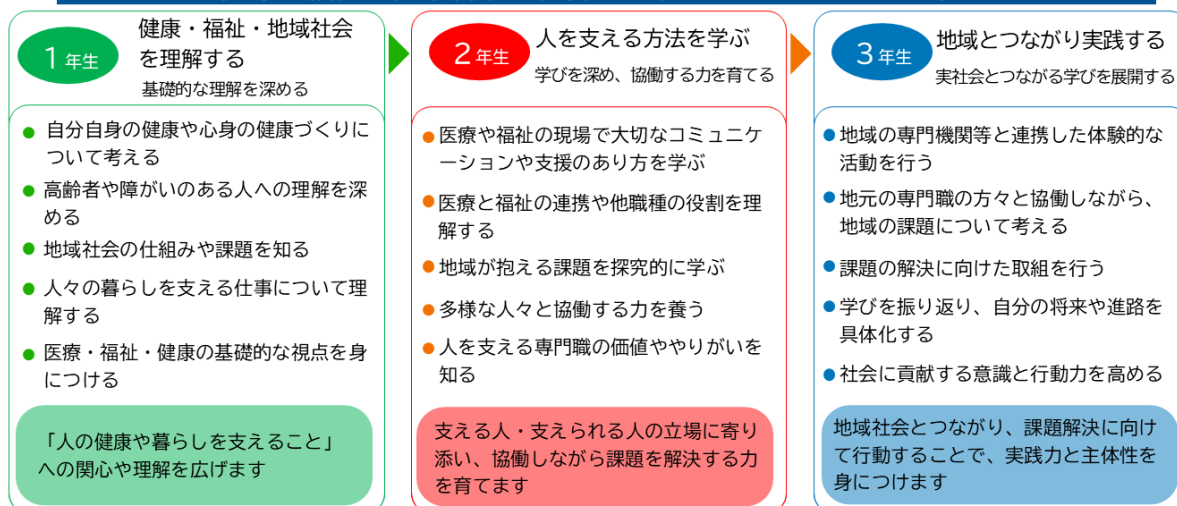
令和12年度

堀之内高校を小出高校と統合する。小出高校に、医療、福祉、健康科学を総合的に学べる『医療福祉コース（仮称）』を設置する。

- 統合後の小出高校には、医療・福祉・健康科学を総合的に学ぶことができる『医療福祉コース（仮称）』を新たに設置し、将来の地域社会を支える人材を育成します。
- このコースでは、1年生で人々の健康や福祉、地域社会の仕組みについて基礎的な理解を深め、自分自身や他者の心身の健康について考える力を養います。
- 2年生では、医療や福祉の現場で求められるコミュニケーションや支援のあり方について学ぶとともに、地域が抱える課題について探究的に学び、多様な人々と協働する力を育みます。
- 3年生では、地域の専門機関等と連携した体験的な活動を通じて学びを深め、地元の専門職の方々と協働しながら地域の課題について考え、その解決に向けた取組を行うなど、実社会とつながる学びを展開します。
- また、医療・福祉・健康科学に関わる学びを通じて、人々の生活や地域社会を支える様々な職業への理解を深めるとともに、大学・専門学校への進学から地元就職まで、生徒一人一人の多様な進路希望に応じた柔軟な支援を行います。
- 医療・福祉・健康科学という「人を支える」学びを軸に、自分自身や他者を理解し、多様な人々と協働しながら地域社会の中で主体的に行動できる力を育み、生徒一人一人が意欲的に学ぶことができる魅力ある学校づくりを進めます。
- なお、堀之内高校については、令和12年度に募集停止とします。

【参考】「医療福祉コース（仮称）」のイメージ

医療・福祉・健康科学を総合的に学び、人を支える力を育む



このコースで身につける力

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 自分自身や他者を理解する力
自分と他者の心身の健康や多様性を理解し、相手を思いやる心を育てます。 | 多様な人々と協働する力
コミュニケーションを大切にしながら、多様な人々と協力して取り組む力を養います。 | 地域課題を主体的に考える力
地域の課題を発見し、解決に向けて考え、行動する力を育てます。 | 人を支える視点を持って行動する力
人々の暮らしや地域社会を支える視点を持ち、主体的に行動できる力を身につけます。 |
|--|---|--|--|

令和12年度

八海高校と塩沢商工高校を統合する。統合校を「セルフデザインハイスクール」とし、定時制課程の仕組みをベースとした、総合学科の「通学コース」と、通信制課程の仕組みをベースとした「オンラインコース」を設置する。

- 「セルフデザインハイスクール」における「通学コース」では、毎日の対面授業を中心としながら、「オンラインコース」の授業も選択可能とし、生徒の多様な進路希望や生活スタイルに応じて、時間割を設定できるようにします。「オンラインコース」では、レポートとスクーリングを中心としながら、「遠隔教育配信センター」が提供するオンデマンド授業も活用することで、学びのスタイルをより柔軟に選べるようにします。
- また、「通学コース」の学科は、県内定時制課程では初となる総合学科とし、国語、数学、外国語などの科目だけでなく、工業科目や商業科目も選択できるようにします。
- 建設・土木系の工業科目や、観光ビジネス系の商業科目では、これまで塩沢商工高校において取り組んできた地域産業と結び付いた学びを引き継ぎます。
- さらに、地域企業等での就労を学校での学びと関連付けて単位認定する「実務代替」を取り入れ、多様な分野において在学中から社会と関わりながら学べる仕組みを整えます。
- 「オンラインコース」では、レポート学習とスクーリングを基本としながら、通学コースの授業の一部を選択して履修することも可能とします。これにより、生徒が自分に適した学び方を選択しながら学習を進めることができる学校とします。
- また、「通学コース」の生徒が毎日通学することが困難となった場合、「オンラインコース」に転籍することで、同じ学校で学び続けられるような仕組みを構築します。
- なお、この統合校の校名および校舎については、地元関係者の意見も踏まえながら検討します。

令和12年度

糸魚川高校と糸魚川白嶺高校を統合し、単位制による全日制普通科高校を新たに設置する。

- 統合校は、単位制による全日制普通科高校として、糸魚川高校が培ってきた大学進学に向けた質の高い学びを継承するとともに、糸魚川白嶺高校の学びも引き継ぎ、普通科でありながら工業科目や商業科目を開設し、大学進学から地元就職まで多様な進路に対応できる柔軟な教育課程を編成します。
- 具体的には、大学進学に向けた探究的な学び、ものづくりやビジネスなどの実践的な学び、地域の活性化や公共の仕組みに関する学びなど、生徒一人一人の進路希望や興味・関心に応じた学習機会を確保します。
- 大学進学を希望する生徒に対しては、地域や大学と連携した探究活動等を通じて教科の枠を超えた広い視点を養うとともに、多様な入試制度に対応したきめ細かな進路指導を行います。
- 地元就職や、工業系・商業系等の上級学校への進学を希望する生徒に対しては、工業科目や商業科目において地域産業と結び付いた実践的な学びを提供し、社会で生きるキャリア形成へとつなげます。
- また、外部講師や行政と連携し、持続可能なまちづくりについて探究する学校設定科目の設置も検討しており、実社会の仕組みに触れる機会を提供することで、将来の地域社会を支える実践的な力を養います。
- さらに、遠隔授業システムも活用し、医療・福祉分野の学習機会の確保や進路希望に応じた講習の充実など、生徒の多様な学びのニーズに対応した教育環境を整備していきます。
- なお、この統合校の校名および校舎については、地元関係者の意見も踏まえながら検討します。

令和 12 年度

佐渡高校相川分校を佐渡高校両津キャンパスと統合する。佐渡高校両津キャンパスを、全日制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」とする。

- 佐渡高校両津キャンパスを、単位制による全日制課程の仕組みをベースにした「通学コース（全日制）」と、通信制課程の仕組みをベースにした「オンラインコース」による「セルフデザインハイスクール」とします。
- 2つのコース間において、お互いの単位修得や転籍を柔軟に行えるような仕組みを構築します。
- 「通学コース（全日制）」では、佐渡高校両津キャンパスの全日制単位制の仕組みを維持しながら、「オンラインコース」で一部の単位修得ができるようにします。
- 「通学コース（全日制）」の生徒が、様々な事情で毎日通学することが困難になった場合、「オンラインコース」に転籍することで、同じ学校で学び続けられるような仕組みを構築します。また、生徒の状況に応じて、再度「通学コース」に戻ることができるような仕組みも検討します。
- 「オンラインコース」では、島内で実施するスクーリングとレポート学習を基本とし、島外への移動の負担がなく、自分に適したスタイルで安心して学習を進められる環境を整えます。
- なお、佐渡高校相川分校については、令和 12 年度に募集停止とします。



※ 本資料は、新潟県のホームページにも掲載しています。

「新潟県 高校再編」で検索または、下記二次コード読み取りから、新潟県ホームページ「令和9年度～令和12年度県立高校等再編整備計画」について」の記事にアクセスし、ページ内に掲載されているファイルをご覧ください。



【問い合わせ先】

新潟県教育庁高等学校教育課

将来構想推進室

電話 025-285-5511 (代) 内線 3887

Eメール ngt500050@pref.niigata.lg.jp

URL <https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kotogakko/>